

相談員 杉澤 琴美

日ごとに春めいてきて、暖かい日差しがありがたみと鼻のムズムズを感じる季節となりました。今号では、“花待ち人”あうんの4月の活動をご報告します。

## 桜を見る会

桜前線がなかなか到達しない名寄。ただ待つだけでなく、自ら創り出して楽しんでいこう！という主旨で昨年からはまった『桜を見る会』。今年もこの季節が巡ってきました。4月25日、5日間の桜を見る会が始まります。取り出してきましたのは、「桜おみくじ」。お花にひとつずつおみくじが取り付けてあり、利用者さんに選んでいただきます。おみくじの内容は、スタッフから皆さんへの愛のメッセージ。おみくじを高らかに読み上げると、皆さんからクスッと笑顔がこぼれ、スタッフは嬉しい反面ちょっと照れくさくなります。おみくじを取りはずしたお花は、利用者さんの手で桜の枯れ枝に取り付けていただきます。皆さん思い思いの場所に、全体のバランスを見ながら…日を重ねるごとに2分咲き、5部咲きと花が咲いていき、最終日の30日には満開を迎えました。満開になった桜を見て、「まるで本物みたいだね」と利用者さんが言ってくださいます。利用者さん全員で取り付けてくれたからこそその充実感です。天井から吊るしたときに窓からの日差しが当たると、造花とは思えない生命力を感じます。ソメイヨシノもエゾヤマザクラも、花が咲いてから散るまで5日間ほどしかないと聞きます。手作りの桜ミルクプリンを食べながら、短い花の命を愛でる5日間でした。



## 手打ちうどん



4月23日、寒風吹きすさんでいた日々が一段落し、久々に暖かい日差しに恵まれた日。こんな日は何かしたいな～と考えても、まだ外は気温が低いし何も無い。それならば美味しいものを作ろう！ということで、唐突に手打ちうどんを作ってみることにになりました。

厚手のビニール袋に入れたうどん玉を足で踏んでもらうところからスタート。直接踏むのは抵抗があるのでタオルをかぶせ、椅子の背にしっかりつかまって踏んでいただきます。交代しながら15分ほどこねた後は、テーブルに移動して打ち粉をして伸ばします。想像ではチョチョイと踏んでヒョヒョイと伸ばすつもりだったのですが、これがなかなかの重労働。皆さん汗をかいて、足と腕の筋肉が大活躍でした。

生地を折りたたんで、食べやすさ重視で細めに切っていきます。大鍋でグラグラと煮ていると…こ、これはまさしく、うどんではないですか！！

お椀に温かい出し汁を注いで、お麩と海苔をトッピング。立派なうどんの完成です。時間は3時、おやつにうどんです。太い細いはお愛敬。やわらかめですが程よくコシもあり、想像以上に上出来だった喜びも加わって美味しさ倍増。おかわりありますよ！と勧めても、皆さん「もうおなかいっぱい」。こんなおやつもたまには良いですね！

## 日々の食卓より



広島県に住むあうんの元スタッフから、新鮮な筍が届きました。筍といえば細竹を思い浮かべる私たち。利用者さんにも皮付きの孟宗竹は初めてという方もいました。利用者さんと一緒に下処理をして一晩あく抜き。翌日は筍フルコースの食卓となりました。甘みと食感は新鮮な筍ならではの。珍しい春の味覚を存分に味わいました。

筍ご飯、筍の煮物、穂先の柔らかい皮の和え物  
長芋のソテー

## こぼれ話

あうん畑に耕運機が入り、今年も畑作りがスタートしようとしています。これまでこの畑で、たくさんのドラマが生まれました。葛藤、衝動…根底にあるのは「役割の再確認」です。今年は何んなことが起こるでしょう。一緒に物語を紡いで行きましょうね♪

